

# CASBEE® 京都-新築

## 標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE京都-新築（2015年版）|使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2015（v.1.0）

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都市南区仁市宮住宅下西園地更新棟(下中北ブロック)(仮称)	階数	地上6F
建設地	京都市下京区上之町14番地の2ほか	構造	RC造
用途地域	防火地域、準防火地域、31m高度地区、20m第3種高度地区、高度利用地区	平均居住人員	75人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	物販店、集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年9月 予定	評価の実施日	2017年12月20日
敷地面積	1,143㎡	作成者	㈱三宅建築事務所
建築面積	475㎡	確認日	
延床面積	1,966㎡	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

0 46 92 138 184 230 276 322 368 414 (kg-CO2/年・m2)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.2**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 崇仁地区 塩小路高倉ブロックで受け継がれてきた「まち、ひと、くらし」のまちづくり方針を継承し、崇仁地区の新しい顔として、人と地域をつなぐまちづくりを計画する。具体的には、崇仁地区の新しい顔としてふさわしい佇まい(まちの視点)、すべてのひとにやさしい、安心・安全な建物(ひとの視点)、豊かなくらしを可能とするすまいづくり(くらしの視点)と、創造・交流・賑わいのまちとして更なる発展を目指す計画とする。		その他
<b>Q1 室内環境</b> 高度な断熱性能を確保[断熱等性能等級4] F☆☆☆☆の建築材料を全面的に採用[ホルムアルデヒド対策等級3]	<b>Q2 サービス性能</b> 住戸内のバリアフリー化 [住宅性能評価高齢者等配慮対策等級3] 構造躯体の長寿命化 [劣化対策等級3]	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 景観地区にあり、勾配屋根や水平庇の他、外観の色彩等まちなみ・景観に配慮した計画とした。
<b>LR1 エネルギー</b> 太陽光発電システムを採用し、LED照明器具の採用による省エネルギー化を図る。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ノンフロンタイプ断熱材など汚染物質非含有材料の使用推進。	<b>LR3 敷地外環境</b> 利便性・安全性に配慮した駐車場及び駐輪場を確保。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される